

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)

A: 十分達成できている

B: おおむね達成できている

C: やや不十分である

D: 不十分である

学校名 **唐津市立厳木中学校**

1 前年度 評価結果の概要

- ・学力の向上については、各学年の家庭学習目標時間達成率が学年が上がることに高くなってきているため、家庭学習の充実が喫緊の課題である。生徒会と連携し、Qフレンズなど家庭学習を充実させる取組を行っているが、今後も継続して取り組んでいくこと、Qフレンズをさらに家庭学習の意欲向上につなげることができる内容とするための改善に取り組んでいきたい。また、一人一台端末も効果的に活用していき、学習意欲の向上につながる各教科の課題の工夫にも取り組んでいきたい。
- ・心の教育について、教育相談や道徳教育をより充実させたり、さらに工夫したりして、生徒に寄り添った取組や自己肯定感・自己有用感を高めるための取組等を継続して行ってきたい。
- ・昨年度のアンケート結果から、生徒会活動の活性化や地域連携においては、おおむね取組の成果が出ていると考えらるが、今年度も生徒の主体性を育む取組を継続して行い、家庭や地域と連携を共有し、学校教育活動を進めていきたい。

2 学校教育目標 **夢にむかって 学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに 未来を拓く 厳木小中学校～**

3 本年度の重点目標

- ・「学力向上」 小中併設校として9か年の学習内容や児童・生徒の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。
- ・「個に応じた教育の充実」 児童・生徒一人一人の長所や強みに着目して、多様なニーズを有する子どもたちに対応した学びを実現させることで、ウェル・ビーイングの向上を図る。
- ・「社会性の育成」 児童・生徒一人一人が活躍できる場面や役割を創出し、児童・生徒に活躍の場をもたせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。

4 重点取組内容・成果指標

評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案	
				(1)共通評価項目		(2)本年度重点的に取り組む評価項目				
●学力の向上	○家庭学習を充実させるための取組	○家庭学習の時間について、1日あたりの各学年の目標時間を達成した生徒が60%以上 1学年:1時間30分 2学年:2時間 3学年:2時間30分	・Qフレンズと自学ノートの取組の推進 ・生徒会による家庭学習を充実させるための取組(家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成・実施)							塚原(学力向上Co) 近藤(Qフレンズ)
	○「知識・技能」の定着を目指した取組 ○「思考・判断・表現」の向上を目指した取組	○各教科ともQテストの1回目の合格率が50%以上になる。 ○実力テストにおいて、「知識・技能」は60%以上、「思考・判断・表現」は50%以上の生徒が到達基準を超える。 ※到達基準は過去の学習状況調査の問題等を基に各教師で設定する。	・MINOや学習状況調査、各実力テストなどの分析により、生徒の学習状況や課題を把握する。 ・Qテストの実施 ・各教科の授業において、「思考・判断・表現」を必要とするような課題や問題を取り扱う。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおける肯定的な回答をした生徒80%以上 ○「学校生活の中で相手を肯定する言葉掛けをしたり、態度や行動を取り組んだりすることができた」と回答をした生徒80%以上	・道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業向上のための資料提供 ・保護者と連携したふれあい道徳の実施 ・学級通信等による道徳科の授業の紹介 ・人権・同和教育の授業実践、平和集会、人権集会等への充実した取組							鶴田 翔 (道徳主任・人権同和教育)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員に相談しやすいと感じる生徒率80%以上 ○学校が楽しいと感じる生徒率90%以上	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 ・9月と11月に担任との教育相談週間を実施(教育相談週間のみではなく、いつでも生徒の話を聴けるような関係性の構築と雰囲気づくり)							畑島(生徒指導) 久表(教育相談)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・生徒の個性から得た情報や家庭・教師・生徒からの情報等を職員で共有し、学校生活における場面において、生徒に承認する言葉をかけていく。 ・学習や総合的な学習の時間を中心に、生徒の個性を広げる活動を取り組むとともに将来について考えさせる時間を確保する。							白木(進路指導・総合)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上	・東郷給食センターから本校担当栄養教諭に来校してもらい、健康に良い食事について生徒が栄養指導を受ける機会をつくる。 ・給食専門部の活動として給食栄養調査を生徒に行わせ、健康に良い食事の代表である給食を頂戴する意識を付けさせる。 ・朝食を食べることの大切さを保護者より等で保護者へ啓発し、家庭と学校が連携して生徒へ望ましい食習慣を身に付けさせる。							山田(食育担当)
	○健康意識の向上と体づくり	○体力・筋力が向上したと考える生徒が90%以上	・新体力テストの実施 ・体育の授業前に持込運動(筋力トレーニング)を実施。学年ごとに負荷・強度を上げていく。							畑島・犬塚(体育主任・保健主事)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・県下一斉郡活動休業日(月の第3日曜日)と週2日の郡活動休業日を徹底する。 ・水曜日の定時退勤実施の推進 ・年次取得を促進するため、長期休業中の年休の積極的取得を推奨する。 ・学校行事や会議等を随時見直す。							教頭
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意欲の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教員80%以上	・発達障害への具体的な支援に関する研修会の実施 ・事例の共有を行い、その対応について確認する機会を設ける。							齋藤(特支Co)
○主体性、ウェル・ビーイングの向上を図る取組	○生徒に学校行事や生徒会活動の中で活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、主体性を高める。	○「専門部の仕事を自覚し、責任をもって忘れずに取り組み、工夫し活動することができている」として肯定的な回答をした生徒70%以上	・生徒会、生徒総会、新入生対面式等の行事や専門部の常時活動の中で活躍する場をたくさん設け、振り返りさせて次につなげる。							鶴田 雷(生徒会) 白木(総合担当)
	○いきいきからつ子育て事業を活用したキャリア教育の取組と地域のリソース活用	○地域での教育活動に対する生徒の達成感及び満足度80%以上	・地域での教育活動の充実 1年 ふるさと探訪 2年 職場体験 ・地域ボランティア活動への積極的な参加							教頭

5 総合評価

次年度への展望